

日本舞踊協会 公演

現代を代表する
一流舞踊家による日本舞踊公演

第59回

国立劇場大劇場


東京都千代田区隼町4-1 (電話)03-3265-7411

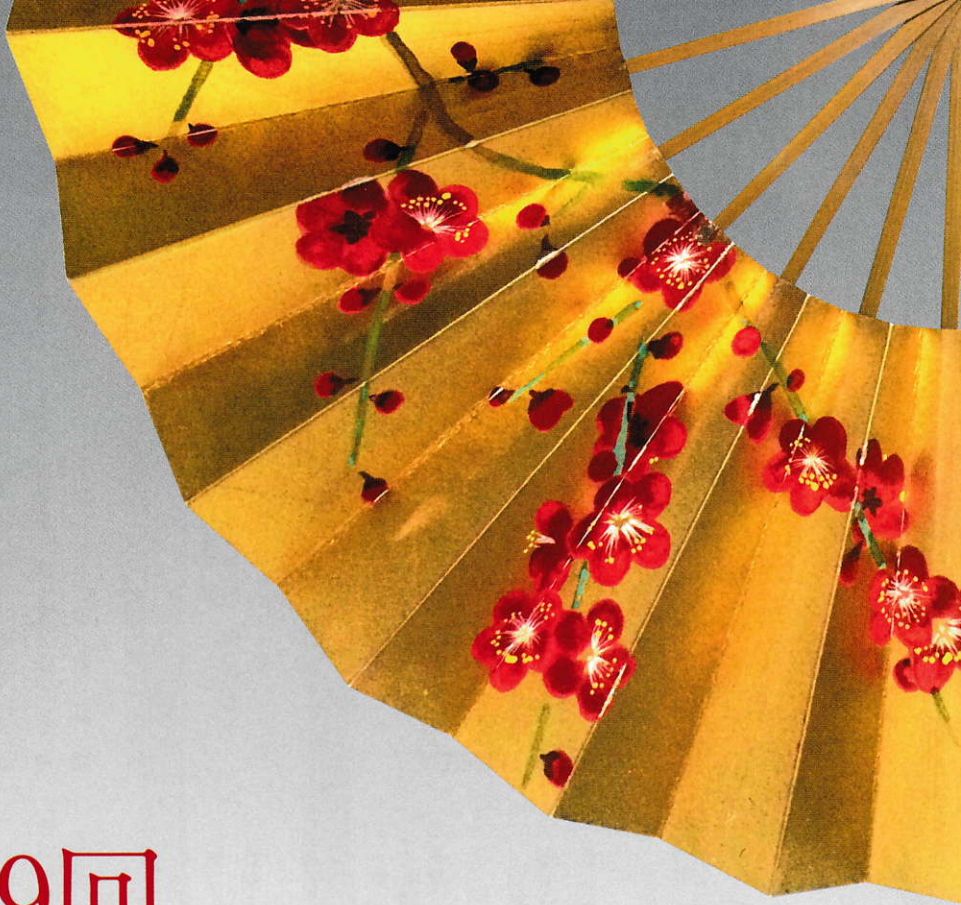
平成28年

2月20日(土)、21日(日)

昼の部:午前11時30分開演 夜の部:午後4時開演

※30分前開場(各部入替制)

2016 都民芸術フェスティバル 



演奏

〔長唄〕

「みみをすます」
今藤政貴(唄)

杵屋栄八郎(三味線)

「君立ち川」天狗風「花」賤機帯

「蓮生」日追の怪「小袖曾我」

杵屋直吉(唄)

杵屋栄八郎(三味線)

「夢の富」神楽十二刻

杵屋巴津也(唄)

杵屋五吉郎(三味線)

〔清元〕

「十二段君が色音」宮比御神楽「うかれ坊主」

清元美寿太夫(浄瑠璃)

清元美治郎(三味線)

「深川女房」

清元美寿太夫(浄瑠璃)

清元美多郎(三味線)

「お化け提灯」

清元梅寿太夫(浄瑠璃)

清元紫葉(三味線)

〔常磐津〕

「辰駕」お化け提灯

常磐津初勢太夫(浄瑠璃)

常磐津文字蔵(三味線)

〔義太夫〕

「吉野山」

竹本葵太夫(浄瑠璃)

鶴澤慎治(三味線)

「弓流し物語」

竹本駒之助(浄瑠璃)

鶴澤津賀寿(三味線)

〔中節〕

「花の段」

宇治はる(浄瑠璃)

宇治をと(三味線)

〔大和楽〕

「樋口一葉」たけくらべ

大和左京(唄)

大和櫻笙(三味線)

〔地歌〕

「荒れ鼠」

菊原光治他

〔囃子〕

堅田喜三久

〔録音音源による上演演目〕

「高野聖」梟祈願「御柱祭」西鶴五人女

第五十九回 日本舞踊協会公演

現代を代表する日本舞踊家が流派を超えて共演する
第五十九回日本舞踊協会公演。

古典舞踊の名作、大作をはじめ、近現代の名人や
若手舞踊家による振付作品、そして上方舞まで
日本舞踊のさまざまな姿をご覧に入れます。

さらに今回は二十日昼の部で、近代日本文学の文豪や
現代詩人の作品を原作、題材とした日本舞踊作品を特集します。
日本舞踊の愛好家の方から初めてご覧になる方まで
お楽しみいただける公演です。

日本の伝統芸能である日本舞踊は、
長い歴史の中で脈々と受け継がれてきました。

日本人ならではの洗練された美や軽やかなおかしみなど、
豊かな表現にあふれる日本舞踊の世界。

日本舞踊の《今》の息吹きを是非鑑賞ください。

- チケット料金
1等 8,500円(指定席)
2等 5,500円(指定席)
3等 2,000円(自由席)
- チケット取扱
(公社)日本舞踊協会ホームページ
<http://www.nihonbuyou.or.jp>
電子チケットぴあ
0570-02-9999 (Pコード:448-464)
<http://t.pia.co.jp>
- 前売り開始日
平成28年1月13日(水) 10時より
- 主催
公益社団法人 日本舞踊協会
- 後援 **NHK**
- お問い合わせ
(公社)日本舞踊協会事務局
03-3533-6455(平日10時~17時)



公益社団法人

日本舞踊協会

〒104-0054

東京都中央区勝どき2-18-1レイメイスカイレジタル210

TEL 03-3533-6455 www.nihonbuyou.or.jp

www.facebook.com/nihonbuyoukyoukai

国立劇場チケットセンター
(窓口取扱いのみ)
東京都千代田区隼町4-1
(電話)03-3265-7411

この部では、日本の作家や詩人の作品を原作、題材とした日本舞踊作品を上演。開演前や幕間では作品の見所を古井戸秀夫氏（東京大学大学院教授）がご案内します。

一、長唄 「みみをすます」

泉 秀樹 五條 詠絹
西川 扇重郎 花柳 喜衛文華
藤間 直三 花柳 幸舞音
若柳 吉央 藤間 聖衣暉

谷川俊太郎の詩に尾上菊之丞（現・墨雪）が振付けた斬新な作品。振付者と詩人の世界観が融合した新感覚の日本舞踊です。
詞・谷川俊太郎／作曲・今藤政太郎／振付・尾上墨雪

二、大和楽 「樋口一葉」

「たけくらべ」

樋口一葉 花柳 ツル
みどり 中村 江梨

思いを寄せる男性に会えない一葉を切なく描く「樋口一葉」と、少女みどりの幼馴染への淡い想いを描く一葉の名作「たけくらべ」の二題です。
作詞・西條八十／作曲・宮川寿朗／作舞・西川鯉三郎

20日 夜の部 4時開演

一、「御柱祭」

弧の会

泉 徳保 花柳 寿美蔵
市山 松扇 藤間 勘吾
猿若 清三郎 藤間 章吾
西川 扇衛仁 藤間 仁風
西川 大樹 若柳 吉優
花柳 榮輔 若柳 里次朗

男性舞踊家集団「弧の会」の代表作。長野県諏訪の奇祭、御柱祭を題材にしたダイナミックな男性素踊りで初演以来大きな話題を呼んでいます。
構成・振付 弧の会

二、常磐津 「戻駕」

浪花の次郎作 若柳 吉蔵
吾妻の与四郎 坂東 幸花
禿たより

戻駕とはお客さんを送った帰りの籠のことです。籠かきの次郎作、与四郎、禿たよりの三人がそれぞれ江戸、大坂、京の廓遊びを踊ります。

三、創作長唄 「高野聖」

女 僧 水木 佑歌
葉 売 花柳 昌克
五 條 珠 花柳 豊彦
川 羅 藤 間 祐助
西 川 左 藤 間 祐助
柳 克 昂 若 見 匠 祐助

深山幽谷を舞台に、信仰深い若き僧侶と、僧侶を誘惑する妖艶な美女の物語です。鏡花の幻想の世界を日本舞踊で描き出します。
原作・泉鏡花／作詞・平岩弓枝／作曲・十四代 杵屋六左衛門
振付・四世 花柳壽輔

四、一節 「花の段」

幸 子 花柳 笹公
雪 子 井上 葉子
妙 子 井上 安寿子

昨年没後50年の谷崎潤一郎「花の段」は平安神宮の紅しだれと美しい三姉妹を重ね合わせた「細雪」の名場面を、谷崎自身が作詞した曲です。
作詞・谷崎潤一郎／作曲・三世 都一廣／振付・四世 井上八千代

三、長唄 「夢の富」

西川 箕乃助
西川 扇二郎

昭和55年に発表され、芸術祭優秀賞を受賞した当代西川扇蔵の代表作の一つ。落語風のユーモアが楽しい作品です。
作詞・海津勝一郎／作曲・杉浦弘和（杵屋五三吉）／振付・西川扇蔵

四、長唄 「花」

西川 申晶 水木 扇升
花柳 和あやき 若柳 薫子
藤 蔭 静 若 柳 美香康
藤 間 藤 栴

梅、桜、橘、菊の「花」にちなんだ吾妻流の作品です。梅は大宰府天満宮、桜は京都の四条河原に円山など、四季の情景が描かれます。
作詞・駒井義之／作曲・今藤政太郎／振付・吾妻春菊

五、新作 「梟祈願」

泉 松本 錦升
雀 尾上 清方
僧 猿若

深い宗教心と自然との交感を文学作品へと昇華させた宮沢賢治の童話が原作です。業を清めるために祈りつづけた梟達が見るものとは...
原作・宮沢賢治／脚色・遠藤啄郎／作曲・豊竹呂大夫／編曲 藤倉呂船
振付・尾上墨雪

六、長唄 「君立ち川」

「天狗風」

祇 王 吾妻 節 穂
祇 女 藤 間 勘 恵 理
仏 御 前 花 柳 眞 理 子
牛 若 丸 花 柳 芳 次 郎
金 王 丸 花 柳 翫 一
天 狗 丸 花 柳 昌 風 生
西 川 上 菊 右 透 花 柳 樂 風 生
尾 柳 静 久 郎 花 柳 裕 太 郎
花 柳 寿 々 彦 若 柳 吉 優 亮
花 柳 近 彦 若 柳 吉 三 十 郎

長唄協会が昭和32年に「新・平家物語」を脚色、創作長唄として発表しました。今回はその中の二演目、「君立ち川」と「天狗風」を上演します。
原作・吉川英治／脚色・宇野信夫
作曲・吉住小三郎（君立ち川） 稀音家六四郎（天狗風）
振付・藤間勘祖（君立ち川） 四世 花柳壽輔（天狗風）

五、清元 「十二段君が色音」

花 売 り 藤 間 洋 子
実は小女郎狐 佐 藤 忠 信 尾 上 菊 之 丞

佐藤忠信が持つ名剣小狐丸を奪おうと、色仕掛けで忠信を口説く雌の小女郎狐。踊りの見せ場の多い古風な歌舞伎舞踊の大作です。
振付・藤間勘祖

六、長唄 「賤機帯」

舟 長 西川 扇 藏
狂 女 藤 間 藤 太 郎

人買いに子供をさらわれて物狂となった女。舟長にからかわれた女は、川面の桜を面白くすくうさまや鼓を打つさまを軽やかに見せます。

一、清元 「宮比御神楽」

西川 扇文女 坂東 里子
花柳 吉史加 坂東 朋奈
花柳 寿華 藤間 小太郎
花柳 奈卯女 藤間 鶴子
花柳 以津緒 若柳 公子

岩戸に閉じこもったアマテラスが、アメノウズメの舞によって岩戸を開くという有名な神話を、女性による群舞でご覧いただけます。
振付・坂東勝友

二、義夫長唄 「西鶴五人女」

お夏 花柳 秀衛 本を読む女たち
清十郎 花柳 登貴太朗 花柳 時寿京
おせん 藤間 秀曄 藤間 駒真季
おさん 西川 扇千代 扇千代 陽
茂右衛門 松風 光陽 貴代人
おまん 花柳 せいりら

原作は井原西鶴の「好色五人女」です。登場するのは西鶴の描いた五人の女たち。個性的な女性たちを、五人の女性舞踊家が舞台上に甦らせてます。
作詞・菅敬助／作曲・今藤政太郎／振付・坂東三信之輔 藤間恵都子

21日 夜の部 4時開演

一、長唄 「神楽十二刻」

サルタヒコ 藤間 達也
ウズメ 花柳 大日翠
ニニギ 花柳 寿太郎
鶉(クグイ) 花柳 詠佳
花柳 智寿彦

五條 珠雀
西川 扇左衛門
花柳 輔藏
花柳 昌真
花柳 達彦
花柳 静干華
藤間 翔央
藤間 蘭翔
若柳 絵莉香

ニニギがアマテラスの命で、日向の国・高千穂に舞い降りたという有名な神話、天孫降臨。豊かで大らかな神話の世界を新振付でご覧いただけます。
作詞・海津勝一郎／作曲・杉浦弘和(梓屋五三吉)／振付・西川扇与一

三、長唄 「蓮生」

蓮生 藤間 蘭黄
平敦盛の霊 市川 ぼたん

蓮生とは、戦国武将熊谷直実の出家した法名です。行方の知れない旅を続ける蓮生が、平敦盛との戦や出家した真の理由を語ります。
作詞・信元虚園／作曲・稀音家六治／作舞・藤間友章

四、地歌 「荒れ鼠」

山村 友五郎 山村 若隼紀
藤間 豊宏 若柳 延祐
山村 若 若柳 竜公
山村 若峯董

地歌の中でも「おどけ物」「作物」と言われる演目の一つです。夜の大阪の商家、暗闇の中に鼠が現れていたずらをするという楽しい内容です。
振付・三世榎茂都扇性

二、常磐津清元 「お化け提灯」

狸・角兵衛 若柳 宗樹
狐・おこん 吾妻 寛穂

曲は、落語や昔話を題材にしたユーモア邦楽の一つです。昔々のこと、ぼったり出会った狸の角兵衛と狐のおこんが化かし合いをします。
作詞・石川潭月／作曲・常磐津英寿 清元梅吉／振付・元若柳寿童

三、清元 「深川女房」

橘 芳慧

富岡八幡宮を始めとして名所が多く、今も江戸情緒が残る深川が舞台です。粋できつぷが良いい深川女房の姿を四季折々に描き出します。
作詞・萩原雪夫／作曲・清元美多郎／振付・橘芳慧

五、義夫長唄 「吉野山」

佐藤 忠信 若柳 壽延
実は源九郎狐 静御前 中村 梅彌

桜が満開の吉野の山中が舞台。静御前と源義経の家臣、佐藤忠信は義経のもとへと向かう途中です。合戦の物語など見所の多い人気の演目です。
振付・藤間勘祖

六、清元 「うかれ坊主」

藤間 勘右衛門

願人坊主と呼ばれた乞食坊主が主役の演目です。薄衣に下帯姿の坊主、身の上話からまぜこぜ踊りになっていろいろな人物を踊り分けます。

四、長唄 「日追の径」

物狂いの女 吾妻 徳穂
若い男 花柳 寿楽

生き別れた夫を捜してさまよう女と女をからかう若い男。やがて女の一心な姿に男は心変わりします。日を追う二人の旅の行方は...
作詞・海津勝一郎／作曲・七代目梓屋巳太郎／振付・花柳壽楽

五、義夫長唄 「弓流し物語」

井上 八千代

八島の戦語りを曲にしたもので、義経が合戦の最中に海へ弓を取り落した弓流しのさまなどを描きます。勇壮な舞が見所です。

六、長唄 「小袖首我」

満江 花柳 壽輔
五郎 花柳 輔太郎
十郎 花柳 小三郎
腰元 片貝 花柳 寛十郎
腰元十六夜 花柳 寛十郎

仇討ちで有名な曾我兄弟とその母の物語。勘当した五郎を最後は許す母の愛、また兄弟の愛をドラマティックに舞踊化した作品です。
作詞・渥美清太郎／作曲・四世梓屋佐吉／振付・元花柳壽輔